

さいたま市環境会議ニュースレター

さいたま市環境会議では、会員の皆さまに活動内容をお知らせするため、ニュースレターを発行しています。本号では、主に2010年度前半の活動をご紹介します。



1. みんなの生きもの調査プラットフォームづくりプロジェクト

このプロジェクトは、「さいたま市における市民参加型生きもの調査を通じ、生物多様性保全の担い手である市民の自然環境への関心を高めるため、生きもの情報の収集を継続的に実施する仕組みである、「みんなの生きもの調査」プラットフォームづくりを目的とする。」もので、平成21年度さいたま市市民提案型協働モデル事業に採択され、さいたま市環境会議とさいたま市環境総務課が協働で、今年の3月まで実施したものです。そして、その成果については、5月18日に開催された平成22年度第1回さいたま市市民活動推進委員会で報告をしました。

プロジェクトの中では、さいたま市内外の有識者が参加する検討ワーキングを設置し、市民参加による生きもの調査の手法、生きもの情報の共有方法などについて検討を行いました。そして、その結果を踏まえて、主に小学校を対象としたチョウの調査に関する実施運営マニュアルや調査ツールなど作成しました。また、途中で調査の方法やツールについて、市内の小学校を訪問し、児童の反応や評価につい

ても検証も行き、より完成度を高めました。市民活動団体と市の協働事業としても高評価を得ており、3月にはさいたま市の職員研修において事例報告も行われました。

今回のプロジェクトの成果については、実際に動かしていくことが肝要です。今後、今回の成果も含め、さいたま市が生物多様性の保全に向けて様々な取り組みを展開するために、会としても市内の様々な団体や環境総務課と連携しつつ、市民、事業者、行政、学校の中で生物多様性への関心を高め、生物多様性を保全するために、これからも継続的に活動していきます。



2. さいたま打ち水大作戦 2010

7月25日（日）、さいたま市環境総務課と共催で打ち水大作戦を実施しました。当日は9:00に、会場であるJR浦和駅東口 駅前市民広場（浦和パルコ前）に集合して、テントを設置しました。テントには「すだれ」「風鈴」「水風船」などを吊り下げて、涼しさを演出しました。猛暑の中、水風船を釣りに来る親子の方が多く、アンケートにご協力いただいたご家族には、好みの色の風船を釣り上げて楽しんでもらいました。打ち水は12:00と14:00の2回行いました。浴衣姿の会員もおり、涼しさが演出できたのではないかと思います。

8月3日（火）は、さいたま市下水道部、環境総務課と共催で、さいたま新都心駅コンコースを会場として冷やせ彩の国打ち水大作戦を実施しました。

12:30の打ち水では、さいたま市のキャラクター、ヌウちゃんも参加しました。子供達は水を掛け合ったりして喜んでいました。14:00の打ち水では、Jリーグ・大宮アルティージャのアルディ君も参加。参加された皆さんは大喜びでした。

3. 緑のカーテンづくり

昨年から取り組んでいる緑のカーテンづくりを、今年もさいたま市市民活動サポートセンター（以下、サポセン）、与野本町児童センター、学童保育ジュピターで取り組んでいます。

サポセンでは、昨年の反省を踏まえ、プランターへの水やりを確実にを行うため、ビルの管理と調整して水道を



さいたま・生きものネット

使わせてもらうことやホース等の備品の充実を図りました。その結果、6月上旬に植えたゴーヤの苗はすくすくと成長し、9階から10階にかけて、大きな緑陰をつくることができました。



与野本町児童センターでは、センター長のご理解を得て、設置個所を2か所に増やし、ゴーヤ10株を4つのプランターで育てました。今年の夏は猛暑だったため、ゴーヤにとっての水不足が懸念されましたが、センターの職員の方や学童保育の先生方に細やかに目をかけていただき、立派な緑のカーテンになりました。センターを利用する子供たちは、ゴーヤを食べること自体はあまり好きではないようでしたが、形の珍しさなどには大いに関心を示してもらったようです。これを契機に、少しでも地球温暖化や自然に対する関心を高めてもらえればと思っています。

一方、学童保育ジュピターの緑のカーテンは、猛暑のせい、今回はうまく育ちませんでした。プランターではどうしても水が不足してしまうようです。自然の力を改めて感じた経験にもなりました。

街を歩いていると、庭などでゴーヤを育てている家を見かける機会が多くなりました。環境教育の一環として、来年も緑のカーテンづくりに積極的に取り

組んでいきます。

4. さいたま市の家庭における1年間のエネルギー使用量の変化について

さいたま市環境会議では、“暖エコライフ”をテーマとして活動にも力を入れていきたいと考えています。家庭からの二酸化炭素排出量のうち、暖房によるものが1割強を占めているのに対し、冷房によるものは数%を占めるに過ぎません。給湯による排出量も1割強を占めることを考え合わせれば、“暖エコライフ”がとても重要であることがわかります。

そこで、さいたま市民の皆さんに“暖エコライフ”に関心を持っていただくために、さいたま市の家庭における1年間のエネルギー使用量の変化を調べてみました。方法は、総務省が実施している家計調査の光熱費のデータから

2009年度の月ごとのエネルギー使用量を独自に推計するというものです。

結果は、一年間で最もエネルギー使用量多いのが1月で、なんと最も使用量が少ない8月の約2.3倍になりました。また、春夏秋冬で比べると、最も使用量が多いのが冬で、最も少ない夏の約2.2倍でした。

エネルギーを使わずに寒い季節を暖かく過ごす方法として、重ね着をすることや余熱を使って部屋の暖房を早めに切るなどの身近な工夫、あるいは住宅の高断熱化などがあります。こうした情報を普及することにより、市民の皆さんが自然に地球温暖化防止に取り組めるようになればよいと考えています。

編集後記： 厳しい猛暑から急に秋の気配が濃くなってきました。猛暑をもって地球温暖化が加速したということにはなりません、人間も含めた生き物にとって、急激な環境の変化は、生命の維持に大きな影響を与える可能性があることを再認識しました。さて、今回のニュースレターは、前回の発行から一年の間があいてしまいましたが、今後もできる限り定期的、継続的に発行していきたいと思っております。

当環境会議の活動について、助言やご批判、気づいたことがありましたら、以下の連絡先をお願いします。



さいたま市環境会議の連絡先：

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町 11-1 コムナーレ 9F

さいたま市市民活動サポートセンター B-83

ホームページ：<http://www.s-c-e-c.org> メールアドレス：info@s-c-e-c.org